よねだ ところどころ

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

第二十九号

山本のコタ山という小地名

諏訪神社の大杉とコタ山

上記の地形図は、美濃加茂市地理情報システムから一部引用した部分図で、川辺町との境界にある諏訪神社の境内北にある小地名と、市指定天然記念物に指定されている大杉が記載されている。このコタ山という小地名は、まことに難解で、つい最近までほぼ不明として扱ってきた。東部の境界にある小地名「段ノ浦」は、「段」は「諏訪の段」として金山記にも出てくる河岸段丘の名称である。「浦」は裏という感じを好字に変換したもので、「諏訪の段丘の裏手」という意味である。諏訪神社の本殿に向かって東に参詣用の道路（祭りの際に南北に分かれた山車が引かれる）があり、その北側が「コタ山」という地名である。写真参照

「コタ山」は、まったく意味の不明な小地名で解釈が困難である。「入会段ノ浦」と「北上野」に挟まれた土地で、北は川辺町に接する。「山」はよいとしても「コタ」という地名はどこから来たものであろうか。一般に「コタ」と発音する場合は「湿地・泥地」を示すが、神社の側に鑑みれば「古田・神田」など、それらしい解釈も可能である。神明神社と諏訪神社の間の谷筋に当たり、台地からの水が抜ける環境と高位段丘の風化土壌が流れて「泥地」を形成したため「コタ」という地名になったとも考えられる。則光見聞記によれば、神田万六氏が七十歳のおり、諏訪神社訴訟称する原因を記すという項目の中に、「小田山御供田」という地名が出てくる。

「コタ」という呼称に「小田」という漢字をあてており、「御供田」は神社に奉納するものを供給する水田と考えられる。とすれば、神田という見解が正しいのであろう。